

「大阪から総選挙を考える」

日時 : 2017年12月8日(金) 午後7:00～

場所 : 上智大学 大阪サテライトキャンパス

大阪市北区豊崎3-12-8

[http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/osc\\_access](http://www.sophia.ac.jp/jpn/info/access/accessguide/osc_access)

報告者 : 在阪民放5局 選挙報道担当者

(毎日放送 奥田信幸、朝日放送 北畠玄太、 関西テレビ 山下奏平、  
読売テレビ 村上高明、 テレビ大阪 平岡 直也 <順不同・敬称略>)

討論者・進行 : 音 好宏 (上智大学メディア・ジャーナリズム研究所長 教授)

企画の意図

かなり急に浮上した衆院解散、そして、総選挙だったが、東京都議選で力を得た小池都知事率いる「希望の党」は途中で失速、野党の足並みの乱れを突いた政権与党は圧倒的な議席を維持する形で終わった。

この選挙をテレビメディアはどう報じたのか、特に全国メディアとは異なりながら、2,000万人という大きなエリアパワーを持ち、独自の視点、切り口が常々注目される関西の放送局はこの選挙にどう向き合ったのか。今回の選挙報道の第一線に携わった5局の担当デスク、番組プロデューサーが一堂に会して、選挙とテレビ報道について議論を深めたい。

かつては参議院選挙に有名タレント候補が立てば、100万票が集まった大阪。近年は衆議院の小選挙区制の導入もあり政治への関心は低まったかと思われていたが、地域政党「大阪維新の会」の登場、「大阪都構想」の住民投票などで、再び政治が大きな関心事となった。他方、同じ近畿圏でも京都や神戸の人々はそれをどう受け止めたのか。これらを伝えるテレビ報道は夕方のニュース帯の更なるワイド化、報道番組以外の番組での「政治ネタ」の扱いの増加、関西発の全国ネット情報番組の登場でその姿を変えていき、投票行動にどう影響したのか。さらにネットメディア、SNSの台頭の中でテレビの選挙報道には何が求められ、問われているのか。

現場で選挙報道を取り仕切った担当者が、関西の声、“風”をどう受け止め、何を伝えるのが一番大切だと考えたのか、全国の流れの中で地域密着の報道をどう実現しようとしたのか、有権者年齢の引き下げで政治参加の機会を得た、ネット・SNS世代の若者をどう意識したのかなどの切り口で、あらためて関西という地域の視点から今回の選挙、選挙報道を振り返るとともに、今後の地域発の選挙報道のあり方、そして、民放テレビにおけるニュース・ネットワークについて、議論を深めていきたい。

なお、今回の研究会は、上智大学メディア・ジャーナリズム研究所「関西メディア・ジャーナリズム研究会」との共同開催とするため、参加希望者の事前登録制とします。希望者は、12月4日(月)までに毎日放送・長井展光 [n-nagai@mbs.co.jp](mailto:n-nagai@mbs.co.jp) までメール

でお申し込みください。また会場では弁当を用意しています。弁当代として 1,000 円を当日ご持参ください。（不要の方はお申込み時にメールにその旨、明記してください）